平成２２年度北九州市地方独立行政法人評価委員会（第６回）

日時：平成 22 年８月３日（火）
14:00～16:10
場所：北九州市役所　５階
特別会議室Ｂ

【事務局】
それでは、始めさせていただきます。ただ今より、平成 22 年第６回北九州市地方独立行政法人評価委員会を開催いたします。
はじめに、資料の確認をさせていただきます。お手元に配布してございます、１枚目は次第でございます。次第の次、資料１－１でございますが、「北九州市立大学平成 22 年度計画の概要」でございます。続きまして、資料の１－２でございますが、「北九州市立大学平成 22 年度計画の全体版」でございます。次に、資料２といたしまして、「平成 21 年度業務の実績に関する評価調書」に、各委員様からいただきました質問に対する大学側の回答を記載したものでございます。次に、資料３－１でございます。こちらは、「平成 21 年度業務の実績に関する評価」といたしまして、各委員様の評価を記載したものでございます。続きまして、３－２でございますが、こちらのほうは評価委員会としての、そのまま案としたらこういう形になるというものでございます。次に３－３でございますが、「本委員会における年度評価の実施要項」がついてございます。最後でございますけれども、資料４でございます。「平成 21 年度財務諸表等の承認についての意見書（案）」でございます。
以上、資料でございます。お手元、よろしいでしょうか。
それでは、委員長、議事進行のほど、どうぞよろしくお願いします。

【委員長】
ただ今から、会議を進行させていただきます。本日、議題は３つございます。議題に沿って進めさせていただきます。
まずはじめに、「北九州市立大学平成 22 年度年度計画について」でございます。これにつきましては、大学のほうからご説明をお願いします。

≪大学事務局より説明≫

【委員長】
ありがとうございました。ただ今、大学のほうから平成 22 年度の計画概要説明がございました。詳細はその１－２の資料の中に含まれておるのだろうと思います。ただ今のご説明につきまして、何かご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。
何かございませんでしょうか。

【委員】
では、２つ程質問というか、４ページの大きな字の２で、「初中等教育機関等との連携」の中で、学生ボランティア事業によるということを書いていますけれども、これは単位化とか、まだ持っていこうとはされていないのですか。

【大学事務局】
　これは、まだ単位化までは至っていないです。基本的には、先生になろうとして資格を取るための教職課程の学生を、当面は、まずは第一にここに送り込んでいくということまでは考えていますけれども、まだ単位化までは至ってないです。
　今、現実に動いているのは、22 年度につくりました「地域共生教育センター」を中心にして、そこで動いているのですけれども、その中でプロジェクト的なものについては、ボランティア活動であっても単位化に持っていこうというようなところで、今、検討に入っている段階で、まだ学生ボランティアの分までは、現実には、今は至っていないです。ただ、将来的にどの程度の時間数だとか、そういったものも十分考えた上で、単位化できるものかということを。

【委員】
　せっかく、取り組まれるのであれば、最終的には専門的な支援に、いわゆるボランティアだけではなくてなったらいいなと、少しお聞きしました。

【大学事務局】
　視野には入れて、進めているという考えです。

【委員】
　そうですか、ぜひ、そうあってほしいと思います。それから、今の「地域共生教育センター」は、私は、少しイメージがよくつかめていないと思うのですけれど、「学内の各種ボランティア活動のコーディネート」というのは何ですか。

【大学事務局】
　学内の学生を、ボランティアに出す際の１つの仕組みとしてつくったということです。ですから、ＮＰＯ団体だったり、外部とのつながりというのは、非常に重要になってきます。まあ企業さんは、今のところないですけれど、何かあれば、当然ありますし、あるいは公的な部分、そういう所とのつながりの中でやっていくと。

【委員】
　将来的なことになるのでしょうけれど、大学の学生と地域ということもあるでしょうし、地域同士のことを、また大学が協力して、ネットワーク化の要になるとか、そういうやりとりが、ずっと横も縦もできるようになるといいのかなと思ったのです。

【大学事務局】
　１つは教育組織としての地域創生学群が、まさしくそういう実習をやりますし、その取組がということなって、地域共生教育センターによって全学的な取組が出て来る。これを一連の仕組みとして、文科省のＧＰをこれで取っているのです。だから、お金のほうもある程度の額をいただいたので、積極的に進めていきたいというふうに思っています。

【委員】
　ありがとうございました。

【大学事務局】

もともと、それぞれのボランティア活動というのは、さまざまな分野で行っていたのですけれども、それを大学として一元的に管理する。簡単にいうと、ボランティアセンターみたいな所がなかったのです。

【委員】
大学の中でも、いろいろされていたわけですね。

【大学事務局】
それを一元管理するというのが目的の１つであって、もう１つは、学生自身の教育の場として、地域貢献というものを前面に出すために、そういったセンターが必要であろうということで、この地域共生教育センターを、今年度から設置したというところでございます。

【委員】
ありがとうございます。

【委員長】
どうぞ、ほかに。

【委員】
地域共生教育センターについては、今、企業はありませんけれども、視野にはあるようなお話でありました。学長からご説明いただいた時も、企業での活動みたいなことが出ていたかと思うのですけれども、今のご説明だと、地域の中でとか、ボランティアというのが主体で、企業に対して経営にかかわっていくような、企画だの何だのというような言葉は、全く対象から外れているようなイメージだったのですけれど、そちらの方も何か活動としてはありますか。

【大学事務局】
22 年度設置したばかりなので、まだ十分な活動とまではいっていないのですけれど、これを構想したときには、企業の、ベンチャーとか何か書いていた絵がありましたですね。
これを考えた最初のイメージとしては、商品開発だとか、そういうものの中に若者のアイデアだとか、そういうものを反映させるだとか、もしかしたら、将来的にそういうものも出てくればいいなというような、そういう意味合いで構想づくりとして書いたということらしいのです。
今後の取組の中で、そういったものもニーズとして出てくれば、もちろん積極的にされるだろうと。

【委員】
どちらかというと、企業側からみると、そのニーズは非常に多いです。ですので、もし、おやりになるなら、ニーズのほうは多分にあるかと思うのですけれど、その対応の受け皿というか。

【大学事務局】
今、ボランティア登録している学生数が 300 人を超えています。それを、幾つかのプ

ロジェクトにはめ込んでいっているのです。１つは、先ほど言った、より先生たちがかかわっていくプロジェクト型のものがあります。それと、もう１つはボランティアの際の側面的な指導だけをやっていく部分と、もう１つは情報の交換だけをやっていくという、その３つくらいがあるのですけれども、今度そういう話があれば、ぜひまた、ご紹介いただければ、そういう取組に行くように、話のほうは持っていきたいというふうに思います。

【委員】
　私は、中小企業のコンサルタントをやっていますけれども、中小企業の経営者協会とかの理事もやっていて、やはり、そういう外の企画とかいうようなことがあれば、ぜひというような話も多々あります。ぜひ、わりと外に向けてのニュースにもなりますし、いいかなと思ってすごく期待をしていたので､それが今日落ちていたので､あらっと思いました。

【大学事務局】
　ボランティアセンターと申し上げましたけれども、やはり、あくまでも教育のための組織という一面がございますので、先ほど少し申し上げました方式として、いわゆる我々のほうでは、プロジェクト型とマッチング型、それからインフォメーション型というふうに３つのグループに分けて、今、コントロールやっているのです。
　プロジェクト型というのは、まさにおっしゃるように、企業と一緒になって物を作り上げていこうというふうな話で、なおかつ、教育的効果があるような事業について取り組んでいこうという。もう１つのマッチング型というのは、お互い学生がこんなことをやりたい、あるいは、地元のほうから、こんなことを一緒にできないかというような話があったときに、それについてうまい具合にコーディネートをしていこうというような方式でございます。もう１つ、インフォメーション型というのはもう１段落ちまして、いわゆるボランティアセンター的な要素について、学生が自ら進んでやることはできないかということで、そういった情報を提供していこうと。
　単なる人力、いわゆるパワーの提供というだけではなくて、教育的側面があるようなものについて、そういうインフォメーションを提供していこうと。今のところ、そういうふうな３つの区分に分けておりまして、まだスタートして３カ月でございますので、今からどういうふうに行くかというのは、未定のところでございます。

【委員】
　もう１点、コンソーシアム関門については、北九大の学生さんがとても少なかったような記憶があるのですが､科目数が増えるとその参加数も増えるというふうにお考えですか。

【大学事務局】
　あとから理由についてはご説明申し上げますけれども、６科目を８科目と、２科目増えるうち、１科目は本学が提供する科目を増やす予定にしております。そして、21 年度につきましても、本学が提供した科目につきましては、ある程度、本学の学生の参加がありましたので、それについては増えていくのではないかなと。やはり、６大学でそれぞれの学生さんがどこでも行きやすいようにということで、小倉の都心部と下関の入り口の所で場所を設定したわけなのですけれども、どうしても、自分の所の先生が講義される科目について参加するという傾向が強いというところがございまして、22 年度８科目に増やすことによって、若干、数は増えていくというふうに私どもも期待しております。

【委員長】
よろしゅうございますか。

【委員】
１点だけ、一番最初の語学教育のところで、前段のところは、目標は前回と変わっていないと思うのですが、専門教育のところで、去年は TOEFL で 550 点以上の人を 55%目指すとなっていて、今度は４年指定で、なおかつ 550 点で 40%と少しハードルを下げたのかなという気がしているのですけれど。

【大学事務局】
ハードルは、確かに下げたといえば下げたのですけれども、もともと中期計画でうたっているのが TOEFL というふうになっていたのですけれども、現実問題として民間企業から求められる指標としてはやはり TOEIC なんですよね。どうしても TOEFL のほうの受験率そのものが下がってきているものですから、なかなか目標に達成しづらいというところがございましたので、今度、次期の中期計画では TOEFL、TOEIC と両方、両論併記みたいな形で出させていただきたいなというふうに、今、検討しているところなのですけれども、今回について、ちょっと１年、先祖戻りになりますけれども、20 年度の時に設定した目標の 40%という割合を出させていただいております。

【委員長】
よろしゅうございますか。それでは、最後に私のほうから、１つは、今回 22 年度が最終年度に当たりますね。それで、今まで５年間積み上げてきた中で、今、語学教育に関連したのもそうですけれども、特にこの 22 年度に重点的にと言いましょうか、あるいは特にこの 22 年度、最終年度ですから、こういう形で進めたい、あるいは特別なここに力を入れたい。全体の計画を進めるのは当然ですが、その中で特にここととここ、あるいは 6 年間の総仕上げという形でこうしたいというようなところが何かございましたら、教えていただければありがたいです。

【大学事務局】
おっしゃるとおり、最終年度でございますので、すべて完了させることを目的として進めていくべきだろうと思いますけれども、１つは昨年度の報告でもございました、まだ第２段階というか第２レベルと申しますか、検討に入ったばかりであったところ「早期卒業制度」、これは力を入れて完了、少なくとも制度的には完成させる方向で進めていきたいと思っております。まだ、あと３段階にあったものにつきましても、全力を挙げて完了を目指していきたいというふうに思っております。

【委員長】
なるほど、分かりました。それが、だから最終年度ということで１つでございました。
もう１つは、一通り計画は進んでおりますから評価するのはその計画の進捗具合で評価いたします。そういう意味で、全体的に、進んでいて、外部評価もまあ大変よろしゅうございます。そういう意味では、まずまずなのだろうと思うのですが、ただ問題は一通りこう進めてきたと、そういう中で特にこういう評価、例えば、評価の中の「Ⅳ」に相当するようなものを、もう少しこう、ぐんと高めると言いましょうか、顕著な結果を出すというようなことが見られないのかなという気がして仕方がないのです。

それはなぜかというと、今、こちらからもありましたように、語学教育などのところで、せっかくこう目標を作ったのだけれど、やはり成果が顕著に表れてきていないというようなところが少しあるような気がするのです。それは、なかなか難しいことなのですけれど、やはり、もう一段高い評価を得られるような努力というものがあっていいのかなという気がするのです。それは、先般いただきました学長の「北九州市立大学改革物語」の中を見させていただいた中で、我々はこれだけ努力しているのだけれども、Ｂ評価にしか過ぎないと、この点が大変残念だよと、学長は書かれているのです。それに書かれているということは、それそれ満遍なくやって、これだけやっているのに、まだ評価委員会の評価はＢなのかというようなことがあるのですが、我々としては、もう少し顕著なものが、ぼんぼんぼんと出てくると、もっと高い評価になるのではないかと、そんな気がしているのです。

例えて言うと、受験生の志願者数が非常に伸びたと、これは顕著に出ているわけです。そういうものがあと幾つか出てくると、高い評価になるのではないかなというような気がして、そういう、今度は計画を順調にこなすというだけではなくて、その中でも今度は「質的な向上」、どこかにも書いてありましたから、そういう努力というものは、いかがなものでしょう。それは次の 6 年間の中期目標、中期計画の中でやるのだと言えばそうかなと思うのですが、その辺はいかがなものでございましょうか。

【大学事務局】

なかなか難しい問題ではあるのですけれども、今後、特に 18 歳年齢人口はどんどん減っていくのは目に見えていまして、大学間の淘汰の時代が始まっていくだろうと。その中で、どれだけ質の高い学生を集めていくかということは、まさにおっしゃるとおり、出口部分で、どれだけ質の高い人材を輩出することができるかが求められている部分ではないかなというふうに思われますので、入口で高い倍率があったということもさることながら、今後はどういう人材を輩出していくのかということを、特に力を入れていかなければならないではないかなと、私なりにはそんなふうに考えております。

【委員長】

分かりました。というのは、少し余分な話をして恐縮なのですけれど、ある国際学会などの様子を聞きますと、やはり、いろいろなところでの日本の評価が非常に低いのです。そうすると、せっかく北九州市立大学は語学に優れていますから、こういうところで出ると、もっともっと評価が高くなるのではないのかなと、そんな気がして。せっかく語学教育で高い、今までも誇ってきたわけですから、さらに一段とこうした。それのために国際交流などを進めていますからいいのですが、そういうのです。

私が望むのは、やや辛口になって恐縮なのですけれど、今度は、もっともっと質の高いものを目指して評価が高くなる。これからの生き残りで、単に計画を一通りこなせばいいというだけではないような気がするのです。おそらく、これからの生き残りの中では、まず、北九州市立大は生き残ることは間違いないのです。それは間違いないのですが、問題は質的な水準がどうなるか、ここの 1 点に掛かるのです。そうすると、大学間競争で、やはり質の高いところというのに、どんどん、どんどん収斂していくのです。そうすると、上下離れてくるわけです。だから、生き残ってはいるけれども、質が下がっていては意味がないので、そういう意味でという気がひとつしたもので。

それでは、1 の議題を終わりまして、2 の議題、「北九州市立大学平成 21 年度の業務実績の評価」について、ご審議進めていただきたいと思います。これにつきましては、事務局よりご説明をお願いいたします。どうぞ座っていて。

≪事務局より説明≫

【委員長】
まず、大学のほうからご説明いただくのですね。
では、お願いいたします。

≪大学事務局より説明≫

【委員長】
１つ教えてください。ＴＡには、何らかの形での手当てとか、何かそういうのはございますか。

【大学事務局】
はい、あります。

【委員長】
どのくらいの手当を。

【大学事務局】
1 時間あたり、確か 900 円だったと思います。

【委員長】
1 時間 900 円の手当を出すわけですね。

【大学事務局】
はい、その程度だったと思います。

≪大学事務局より続きを説明≫

【委員長】
ここは、学内の有識者と専門官の登用ということで、新たにこういう人が、学内の人が就任をしたというそれが公表されているのですか。要するに、経営審議会の議事録で審議した内容を質問しているのではなくて、学内の人を登用したというそれが公表されているのですかとお聞きしたのです。

【大学事務局】
役員会・経営審議会のメンバーについては、ホームページ上で公表しています。

【委員長】
だから、メンバーを公表していて、入れ替わったということの公表をしているのですか。要するに、現メンバーはこれこれですというのは出ている。

【大学事務局】

変更は、当然、その時点で名前が変われば、変更はしていますので。

【委員長】
出てきているのですか。

【大学事務局】
はい。それは適時やっています。

【委員長】
分かりました。

≪大学事務局より続きを説明≫

【委員長】
ありがとうございました。ただ今、大学からのそれぞれの委員の皆さま方のご質問に対しての回答でございました。ただ今のご説明に対して、何か特にございませんでしょうか。

【大学事務局】
１点だけすみません。先ほどの、ＴＡの報酬単価でございますが訂正をさせていただきたいと思います。院生がＴＡに多くなっておりますので、院生、時間単価が 1,100 円でございます。学部生がたまにまいりますが、その場合が 800 円でございます。多くの場合は 1,100 円でございます。訂正させていただきます。

【委員長】
分かりました。ありがとうございました。

【委員】
89 の分なのですけれども、中小企業の支援ということで、まず、技術支援は分かりやすいのですが、公庫との連携による経営相談ということになると、公庫との連携とはどういう関係を保っての連携になるのでしょうか。

【大学事務局】
これはもともと、日本政策金融公庫がいろいろと中小企業の取引先をずっと回っておりまして、その中で中小企業、技術相談も経営相談も含めてなのですけれども、なかなか専門的なことを大学に電話で聞くというわけにはいかないという声を随分聞いているというふうな話がございまして、日本政策金融公庫が独自にいろいろな大学と協定を結んで、その声を大学に伝えて、そこでマッチングなり支援をするということをやっているということだったのです。その中で地域産業支援センターというのを窓口として、日本政策金融公庫からの相談を受け入れるということですので、その中で政策金融公庫が中小企業から、例えば財務の書き方が分からないとか、そういったことがあれば、それを私どものほうに受け入れて、北方のほうに都市政策研究所というのがございますので、そちらのほうでできれば、分かるものはこういったふうなことがありますよという相談を受ける。こういったことになっております。

【委員長】
　よろしゅうございますか。何かどうぞ、ほかに。実は、このあと評価の審議に入りますと、大学の方々はご退場になりますので、現在、今いらっしゃるうちに何でもお聞きいただければと思います。

【委員】
　では、５ページの 45 番の「お迎え企画とお出かけ企画」ですが、これは 1 から５番まである中の２番がお出かけ企画ということになるのですか。

【大学事務局】
　そうですね、この中で言うと２番になります。もう少し細かく言うと、出張講義と高校訪問とあります。高校訪問のほうは、例えば積極的に行く話で、厳選して行っているのですけれども、出張講義は二通りあるのです。高校から「お願いします」と言ってくる場合があるのです。それはどんどん受けて積極的に行っています。ただ、間に業者が入っているケースがあります。それは高校からの意向というよりも、業者があくまで調整して、「北九大さん、ここの高校に行くような企画に乗りませんか」という話。それは、従来はずっと、かなり積極的に乗って行ったのですけれども、今回は少しその辺りは厳選したというところが少し大きく響いているようです。

【委員長】
　今おっしゃったとおりで、これはなかなか、業者が入ってくると直接の場合と少し違いますのでね。

【大学事務局】
　少し業者の考えというのがあるのでですね。そこは厳選したという。

【委員長】
　やはり業者の意向が入ってしまいますからね。

【委員長】
　ほかによろしゅうございましょうか。ありがとうございました。
　それでは、ご質問がなければこれで、ただ今のご説明が終わったあと、評価の審議に入りたいと思います。どうぞ、大学の方、ありがとうございました。

【大学事務局】
　ありがとうございました。どうぞよろしくお願いします。

≪大学退席≫

【委員長】
　よろしゅうございますか。それでは、これまで大学側から説明を行いまして、項目別評価と分野別評価ということでご審議をしていただきたいと思います。
　まず、事務局のほうから分野ごとにご説明をお願いできればと思います。

≪事務局より説明≫

【委員長】
　ありがとうございました。全体、今ご説明がございましたが、何かこの分野別評価について、ご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

【委員】
　Ｂ以外付けようがないしですね。

【委員長】
　今の最後のところ、少しおかしいのではないか。分野別評価の５－１。よろしゅうございますか。文章の丸ポツの３番目、「メンタルはケアを必要とする」、こういう言葉が特にあったのでしょうか。通常、これは「メンタルケア」というのが１つの単語になっているはずでして。

【事務局】
　すみません。私のほうが先生の表現を１文字間違っていまして、先生のご意見で「メンタルなケアを必要とする大学生が」だったので、「は」ではなくて「な」です。

【委員長】
　メンタルな、そうですか。

【事務局】
　「メンタルなケアを」です。すみません。すぐに直します。申し訳ない。

【委員長】
　よろしいのではないかと思うのですが、私は少しだけ、やや不満なのです。何で不満かというと、特に最初の「教育・研究の質の向上」ということをうたっていますね。それに対する計画をずっと進めてすすめているということはよろしいのですが、先ほどの語学教育、TOEIC、TOEFL の問題もあったように、質の向上という点で、確かに計画は一通り進めたのです。その通りなのですけれども、ただ、質の向上ということで、やや、やはり私は、もう少し一段の努力が必要なことなのではないかなという気がして、内容的にはやや横ばいだと。横ばいで、計画は最初のころやったのに、その後、計画だけは行っているけれども、質の向上に対するということが少し足りないかなという点があって、この今までの文章を全部読むと、本当に、何で学長のこれはＢだと。これだけ高い評価を受けているのだからという気にもなりかねない面も。例えば、少しここに注文的なことを入れられないのかなという気がしているのです。ただし、皆さんの集約ですから、これは仕方がないと思うのですけれど。

【委員】
　私も、もう本当にそうなのです。私が 550 点以上のところに、あえて「III」を付けてしまったのは、結局、そういう数字を追うことだけではないのですよと。それで全体評価のところに入れさせてもらったのは、例えば語学教育で言えば、本当に国際人として通用するような人材を、やはり育ててほしいというようなことを少し言いたかったのです。何

となく、逆説的に「III」を付けてしまったのですけれども。それで、書きたいなというところもあったのですけれども、中期計画は 22 年度が最後なので、ひょっとすると 23 年度の計画には、そういうところが大学側から、出てくるのかなと。出てきてほしいと思ったのですけれどね。もう本当、あとは中身ですけれどね。そこが一番大事だと思います。

【委員長】
　そうなのです。だから、実質的に本当の意味での質の向上に資するような、「さらなる努力が望まれる」とか、というのが少しほしいかなという気がしたのです。

【委員】
　全般的に、私もそれは思っています。例えば、１個言うと、地域コンソーシアムで北九大の大学生に参加が少ないのは、場所の問題だとか、先生が北九大でないとかおっしゃいましたが、それだったらこの事業自体が、意味があるのだろうかという。この理由は、参加数の改善ができない､改善不可の理由を挙げられたので､何か数はＯＫなのだけれども、そういう小さいところでいっぱい違和感が少しずつあるなというのがある。
　素晴らしいのですよ、素晴らしいなと本当に思うのですけれども。

【委員長】
　おっしゃるとおりです。そのとおりで、トータルとしては、もう言いようはないのです。それでよろしいのですけれども、ただ、やはりその質の向上という点で、さらに一段と。はっきり言えば、大学の外部評価も結構高いですし、この点ではいいのですけれども、それでは、そういう中から本当にこう優秀な学生で、例えば全国の英語弁論大会、フランス語の弁論大会などで優勝したとか、そういうようなものが少し出てほしいなと。計画は一通り行っているけれども、その辺が少しあるかなという気がしたのです。
　私は、「カーエレクトロニクス」のところは、逆にもっと広報してもいい、非常に評価が高いなという気はしていたのですけれど、そういうところがちょっとありました。

【委員】
　でもそれは、この全体評価の中で委員長に少し追加して書いていただいたら。

【事務局】
　これは各論でございますので、各論は各論という形で、全体が次にございますので、それは全体的に見ながら検討いただければと思います。

【委員長】
　分かりました、そうですね。全体は、本当に満遍なくうまくいっていて、とにかくいいのです。
　私はまた、もう一つ言うと、かつて北九大出身の方が、結構他の大学の大学院を出て、よその大学の教授で活躍している人などを見るのです。そうすると、非常に高いレベルなのです。例えば、東京のある私立の大学の教授ですけれども、ゼミナールを全部英語でやっているのです。ゼミを英語できちんと。だから、北九大の外国語を出て、専門でよその大学院を出て、きちんと全部英語で、文系でゼミをやるなどというのは、相当レベルが高いと思うのです。そういう人を出してほしいという意味で言うと、まだちょっとかなという。ただし、これは欲かなとも思いますし、そこまで言ってはと思ったのです。

【事務局】
　先生たちのおっしゃりたいことは、よく分かります。

【委員長】
　分かりました、それでは、どうぞ、全体評価を。

≪事務局より説明≫

【委員長】
　分かりました。ただ、ここに、「さらなる努力が期待される」とか、「人材の育成に期待する」と入っていますから、こういうことかなともいう気はしますけれど、なかなか難しいですね。うまくまとめてあります。皆さんのものをまとめるのは大変だと思います。
　どうぞ、ご意見、おっしゃっていただいて。
　まあまあ、いいのではないですか。というのは、本当に細かいことをいうとあれなのです。先ほどの中で、教授がほかに出ていってもう少し活躍してほしいなと。ところが、見たら、学長が半分くらい入っているのです。学長が進んで出るのは分かるのです。これはいいのですけれども、もう少し何人かの教授たちが外に行って、地域に入って活躍してほしいなと、そんなところもあったりするのですが、まあ、第一期目の６年計画ですから、そういうことで二期目を期待するということになりましょうかね。

【事務局】
　熱い先生方の思いを大学側には伝えておきますので。

【委員長】
　どうぞ、ほかの方のご意見も、今後のこともありますから。何か、どうぞ。
　そうですね、よろしいのではないでしょうか。「さらなる取組を期待する」というのが、一番ではないですか。
　やはりこれは、学長のリーダーシップは大きいのです。これは、非常に外から見ていても、ほかからも高い評価を受けますからね。特に私は、最初の前半、３年で非常によくやったような気がするのです。
　それでは、一応、こうやって事務局のほうで集約もしていただいておりますので、おおかたこういうことでということで、ご了承いただいて、よろしゅうございましょうか。

（一同「異議なし」）

【委員長】
　分かりました。それでは、事務局案どおりでご決定いただいて。ありがとうございます。
　それでは、最後、３番目の議題に移らせていただいて、「北九州市立大学の平成 21 年度財務諸表の承認及び剰余金の翌年の繰越について」でございます。事務局のほうから、ご説明お願いいたします。

≪事務局より説明≫

【委員長】
　ありがとうございました。それでは、市長への意見を申し上げるのに、資料４にございますとおり意見書ということで、「意見なし」ということで、よろしゅうございますか、何かございますか。よろしゅうございましょうか。

（一同「異議なし」）

【委員長】
　分かりました、ありがとうございました。
　それでは、本日付でこの意見書を、これは市に提出、これは産業経済局でしょうか。

【市】
　評価委員会からは、意見書は市長へと。窓口としては産業経済局になります。

【委員長】
　そうですか、分かりました。では、そういうことで提出していただいて、お願いします。
　では、あと、事務局のほうから、今後の予定について、ご説明いただきたいと思います。

≪事務局より説明≫

【委員長】
　ありがとうございました。何か、特にご質問、よろしゅうございますか。
　それでは、他になければ、これで、よろしゅうございますか。
　では、今日はこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

（一同「ありがとうございました」）